

めいじょうこうえん

名城公園遺跡(本発掘調査B)

所在地 名古屋市北区名城一丁目
(北緯35度11分24秒 東経136度54分09秒)

調査理由 愛知県新体育館

調査期間 令和4年2月～6月

調査面積 27,000㎡

担当者 鈴木正貴・樋上 昇・永井邦仁・早野浩二・宮腰健司・
鈴木恵介

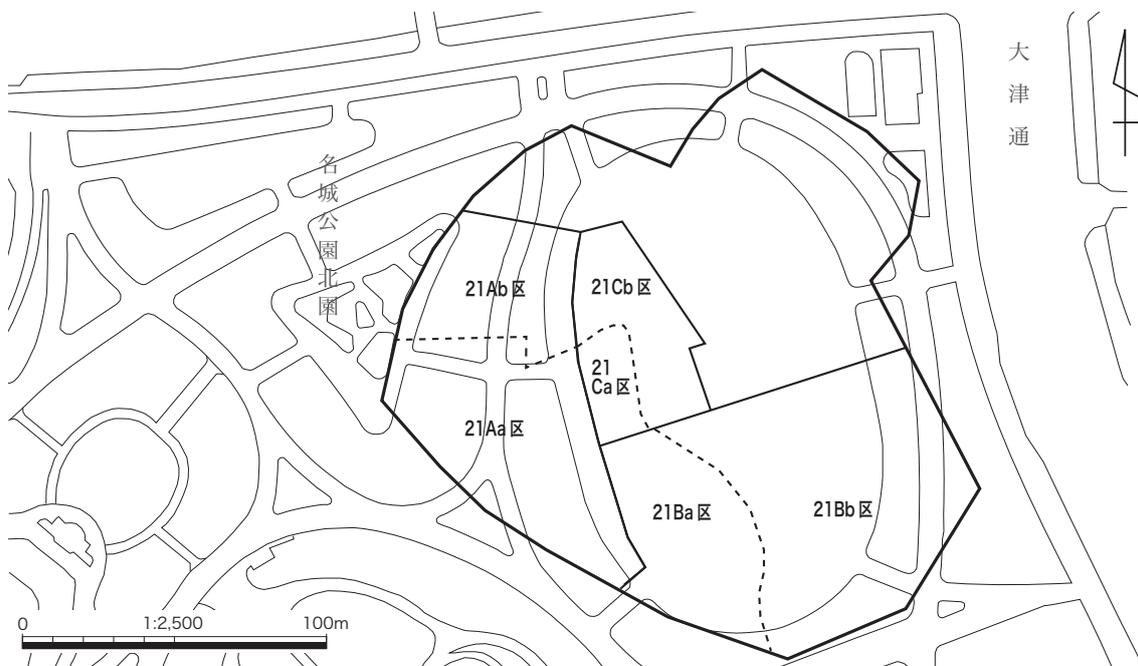


調査地点(1/2.5万「名古屋北部」)

調査の経過 調査は、愛知県スポーツ局による愛知県新体育館工事に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。令和3～4年度の総事業面積27,000㎡のうち、今年度は21Aa・Ab・Ba・Bb・Ca・Cb区について調査を行った。

立地と環境 遺跡は特別史跡名古屋城の北側に位置し、熱田台地から約10m下った沖積低地に立地する。標高は4.5～5.5mである。江戸時代の当該場所は、「御蓮池」とその北側に尾張徳川家の庭園である下御深井御庭が広がっていた。明治22(1889)年からは陸軍の名古屋城北練兵場、戦後は名城公園となっている。

調査の概要 調査対象地の西縁付近では、近代以降に攪乱された層位から近世後半以降の陶器や瓦の出土し、第10代尾張藩主の徳川斉朝によって改作された頃のものと思われる。その下層には、古墳時代中～後期を中心とする土器類、特に5世紀末～6世紀前葉の須恵器や土師器を包含する暗褐色シルト層が広がっている。土器の集中するポイントがいくつかあり、多量の炭化物を伴う箇所もあることから、当該期の集落があったものと考えられる。遺物包含層の下位は微高地を形成する明灰色砂質シルトで、21Aa区～21Ba区が最も高くなると見られる。(永井邦仁)



名城公園遺跡 全体図 (S=1/2,500)